

# エトランゼ<sup>®</sup>

1973. 4. 17 No. 8 大森第四小5の1学級通信

## 父母より (A女の母)

始業式に学校からニコニコして帰ってきました。手をはかませて「お母さん、向山先生よ」と喜んでいました。四年生のときは本当におせわにほりました。おかげさまで、元気いっぱい成長しております。3年生から、4、5年生にかけての姿身ぶりはおとろくばかりです。たいてい難をいけば、学校の迷惑ごとを何一つ話してくれないのでちよとさびしく思います。向山先生を信じておりますからよろしくおねがいします。

## B男の母

ほいめの先生におねがいする事は紙上書ききれないほどありますが、わんぱくでありますので、よろしくおねがいします。

五年生ともなれば、親のいう事と耳をかしてくれません。先生方の教育をみっちりやってもらいたいと思います。身におねがいするよう言事はありませんが、大きく成長してもらいたいものです。学校から帰ってくれば、勉強より遊びが先ですが、勉強する時はより以上にやっていかせたいものです。

## C女の母

桜も満開に咲きまして、新学期が始まりました。本年度も向山先生に頼りました。子供として喜んでいきます。進級しても相変わらずの子供ですけれど、よろしくおねがいします。学校への要望との事ですが、何をおねがいしてもいいのやら分りません。こんなことを書く親、先生に申しわけなく思います。(決して先生に迷惑をかける家ではございません) 自分から勉強はしたしませんし、親が又おまじり教えることと

さません。でも、宿願だけ：自分をいっしょうけんめいやっています。親が学向が  
 怖いので、子供は大変でしょう。くはざんじいお婆よ、やせておかし親がいるから、子供は人間  
 として育てていください。何事にもかえがたい親の情があるから成長していください。学向がきつくて、やろうとして  
 その条件のほかにたことを、子供のひげに感じさせない、これらうちを感じさせたいです。むしろ、人間  
 としての強さを感じさせていくのはいいはず。 向山>

先生もこれぐらいのかと思われがちかもしれませんが、く思いません。向山> 私は新  
 制中学は卒業しましたが、勉強は好きだったので、家の都合でく両親他界くあまり  
 学校へは行っていません。子供にばかりでした。今の子供や先生には考えられなくて  
 しょう。く俺も、中一で女をくはし、少くは理解できるつもりです。くそんなわけですから、学  
 校への要望ということは書けないんです。無学后親ですけれど、これから二年向、  
 子供を良くお導き下さいませよう。よろしくお祈りいたします。

(向山)

何も書けないといっているこの親の文の中に、俺は多くのことを感じとる。まんま  
 く学校へ通えなかったことに対するこの悲しいまでのひげめ、中一に女をくはし  
 したが、それでひとにかく大学は出た俺が、知ったかぶりをしてはいけない、わか  
 ったかぶりをしてはいけない人生の重みがそこにはある。幼くして両親をくし、好き  
 な学校へも満足には行けなかったこの苦しみ。けっして、この人が悪いのではありません、ど  
 うしようもない条件にじげられた学級時代。それはそれでいい。過去のことなのだから、  
 けれど、子を育つ上で、更にのしかかってくる学向へのひげめ。

だから俺は、せめて本物の教師に近づかなくてははいけないのだ。俺はそうする事では  
 ない、この母親の文字に出会った読者のく頼みを共有することはできないのだと思  
 う。本物の学向の息吹きを、頑固な精神と柔らかい心を、子供に伝えなくてはと思うので  
 ある。同情などではないのだ。そんな安んずることはないのだ。足を大地につけて  
 生き抜いてきた母親が(多くの父母が)万感の思いをこめて読まれたこの子供達を、  
 俺はしっかりと受けとめようではないか。甚しい中で学向のひげめをきとてく  
 俺の両親に対して、俺はそうせねばならないと思うのである。